



## 「こんな秋田になつて欲しい」を叶え続けるマルチな政治家

新総理就任・組閣など憚ただしい中、10月21日には衆議院が任期満了を迎える。いま私たちが地域を託すべきなのは、どんな人だろうか。そこで、秋田県選出の国会議員・金田勝年先生に、自身の生い立ちや地域にかける思い、政治とは何かなどさまざまにうかがつた。そこから見えてきた、国会議員としての強い信念とは――。

報道やポスターなどで見かけるけれど、よくわからないのが国会議員。22年もの間、議員として活動されてるのはどんな方なのだろうと興味津々で事務所にうかがつたところ、大きな笑顔で金田先生が迎えてくださいました。

「みなさん、私のような政治家に会つたことがないと思うんですよ。以前は土木建設事業や農業など、ひとつの分野を掘り下げてきた政治家が多くつたから。ところが私は、大蔵省という財政の金庫番みたいなところに21年間いて、あらゆるリクエストに答えを出すことを得意としているんです。だから、いたく陳情の類は360度、なんでも対応する。こういうタイプはなかなかないんですよ」

金田先生の功績をうかがうと、高

速道路の建設や観光資源の保護・整備、農林業の推進、医療施設への補助など多岐にわたります。これらは、地域の人たちから要望があつても、各市町村・県と連動して国を動かさなければ実現できないものばかり。私たちが「こんな秋田になつて欲しい」と願うあらゆることを、国の中枢に働きかけて実現させてくださいます。

「秋田2区は男鹿半島から十和田湖までの市町村ですが、このエリアの面積は東京都の2.3倍。東京の衆議院議員選挙区は25なので、57人分の選挙区をひとりでやつているということ。一生懸命にならざるを得ないです。そういう中で、ある市町村の長から非常にありがたい言葉をいただきました。『私は金田先生を応援します。秋田2区には15人の市町村長がいます』が、全員が金田先生を応援しています」とね。私の仕事を、地域のみなさん

**郷土を守り抜く**  
金田勝年 × 藤原将子  
衆議院議員  
インタビュー

金田勝年(かねだかつとし)

1949年10月4日、秋田県南秋田郡昭和町(現・潟上市)生まれ。東北電力に勤務する父の異動にともない、県内を転々として育つ。秋田高校から一橋大学経済学部入学、卒業後の1973年、大蔵省主計局入省。大阪国税局調査部長、米プリンストン大学国際問題研究所客員研究員を経て主計官となる。1995年、参議院議員選挙に秋田選挙区から出馬、初当選。参議院厚生労働委員長、外務副大臣を務め、2009年からは衆議院議員(秋田2区)として活動。2016年、法務大臣として初入閣。幹事長代理として自由民主党の重役を務め、2020年には衆議院予算委員長に就任。22年にわたる議員生活では、多岐にわたる要望を叶えるため尽力し「実行力は金田」との異名を取る。現・自民党秋田県連会長。

### 【インタビュー・執筆】

藤原将子(ふじわら・まさこ)

秋田県生まれ。子ども時代を能代市で、中学・高校時代を秋田市で過ごす。大学卒業後、株式会社幻冬舎に入社。加藤廣志

『日本一勝ち続けた男の勝利哲学』などの書籍をメインに130冊以上の出版物を編集する。現在はフリーランスの編集者・ライターとして活動。

携帯から最新情報を確認できます▶  
<http://www.kaneda-k.com>



金田勝年 検索

「縄文文化の世界遺産登録は、議員連盟の中ですと主張し続けてきて、ようやく登録が叶いました。大館の『秋田犬の里』も、駅前整備のために国から予算をいただいた。花輪ばやしの無形文化遺産指定のときも奔走したんですよ。大切に守り続けていかなければならぬ郷土文化だから

農家のみなさんも、豊作を喜べる政策にしなければダメ。豊作になると米価が下がって、農家のみなさんが困る事態を変えなければ。また私は子どもの頃から林

に喜ばしいことです。『繩文文化の世界遺産登録は、議員連盟の中ですと主張し続けてきて、ようやく登録が叶いました。大館の『秋田犬の里』も、駅前整備のために国から予算をいただいた。花輪ばやしの無形文化遺産指定のときも奔走したんですよ。大切に守り続けていかなければならぬ郷土文化だから

農家のみなさんも、豊作を喜べる政策にしなければダメ。豊作になると米価が下がって、農家のみなさんが困る事態を変えなければ。また私は子どもの頃から林

に喜ばしいことです。『繩文文化の世界遺産登録は、議員連盟の中ですと主張し続けてきて、ようやく登録が叶いました。大館の『秋田犬の里』も、駅前整備のために国から予算をいただいた。花輪ばやしの無形文化遺産指定のときも奔走したんですよ。大切に守り続けていかなければならぬ郷土文化だから

農家のみなさんも、豊作を喜べる政策にしなければダメ。豊作になると米価が下がって、農家のみなさんが困る事態を変えなければ。また私は子どもの頃から林に喜ばしいことです。『繩文文化の世界遺産登録は、議員連盟の中ですと主張し続けてきて、ようやく登録が叶いました。大館の『秋田犬の里』も、駅前整備のために国から予算をいただいた。花輪ばやしの無形文化遺産指定のときも奔走したんですよ。大切に守り続けていかなければならぬ郷土文化だから

農家のみなさんも、豊作を喜べる政策にしなければダメ。豊作になると米価が下がって、農家のみなさんが困る事態を変えなければ。また私は子どもの頃から林に喜ばしいことです。『繩文文化の世界遺産登

はたら  
ちち  
せなか  
み  
めせ  
じまい  
なか  
よ  
はたら  
ちち  
せなか  
み  
めせ  
じまい  
なか  
よ

だよ』ということ。この言葉が今まで  
も心から離れないんです。『俺が作る  
電力で世の中が明るくなっているん  
だ。電灯が消えたら、蠟燭ろうそくで生きてい  
ね。そんな親父の後ろ姿を見てきた  
ので、自然と『自分も人から感謝され  
る、世の中のためになる仕事をしな  
きやいけない』と思うようになります  
た。それが私の原点です。

くて林野庁を目指し、浪人して東大受験の勉強をしていたけれど、東大紛争で入試がなくなってしまった。同じ時期に、高校時代の同級生が赤軍派のあさま山荘事件で殺されたりしてね。一種の大きな挫折ですよ。それでも役人になる夢を諦めきれなくて大蔵省に入つたんだけれど、やはり親父の言葉のように世の中を明るくしていきたいと思って、政治の道に進んだんです。だから私は、けつこう挫折を重ねてきてるわけですよ。でも、人間はそういう経験がないと温かくなれないと思う。『金田は冷たい男だよ』と思われたら、そこで終わりだなと思つていますね

地域のため、世の中のため——そ  
う公言する政治家は多いけれど、  
実際に私たちの生活の中で、国会  
議員のみなさんはどう働いてくだ  
さっているのか。直接会う機会が少  
ない国会議員とは、距離を感じる  
人も多いでしよう。金田先生は「そ  
うなんだよね。それが残念で」と苦  
笑しながら、議員としてのご自分の  
お仕事を教えてくださいました。  
「秋田と霞ヶ関とは、もともと距離  
がありますね。ということは、公的  
なものを実現させるための意思決  
定をする人間が、たぶん秋田県か  
らいいちばん遠いところにいるんで  
す。彼らに近づくことができるかど

うかは非常に重要なこと。たとえば、予算の時期に限らず、秋田県庄からいろいろな要望が届きます。それを、知事や県議会議員のみならずと一緒にになって実現するために、それぞれを管轄する役所のキー・パーソンに話を伝えないといけません。でも、誰を通じて伝えるか、誰が引き合わせるかというのが非常に重要なんですよ。私は、秋田の人たちをそこに案内して担当者に引き合させ、実現までのプロセスをしつかり組み立てています。それが政治家の仕事なんです。知事が『金田さんがいなければ、ほとんどダメなことばかりだ』というふうに言つてくれました。秋田2区の市町村長の方々も、『金田さんしかいない』と。私もみんなも、実現しないと存在する意味がないからね」と存在する意味がないからね」

せいさく  
かた  
だれ  
たいせつ

じつげん

政策を語るのは誰でもできる  
実現するのがもつとも大切

# 政策を語るのは誰だれかかた実現じつげんするせいさくのがもつと

生。そう実感するに至った最近のお仕事の中で、特に印象に残っているものはないしどう。

のはなんてしょ？

に『テロ防止法』を制定したこと。その際には民法と刑法も抜本改革しましたが、法務大臣数年分の仕事だつ

第一回は、二階幹事長の代

理を3年間務め、大きい判断、決断をするときの動きをそばで勉強できること。3つ目は、全大臣があらゆること。

ノーマで議論する衆議院の予算委員会の委員長を務めて、我が県出身の元総理のです。一九二〇年秋に

自殺理のサボーリーを徹底的に行ってきしたこと。この3つは自分にもプラスでしが、秋田の対応力の一部として、必

客業クリエンタリ業そんじ暮らしにかかる仕事のみなさんだよね。それは、この分野をやれる政治家

ほこ  
きょうど  
つく  
ちいき  
まも  
ぬ  
けつい

ほ  
じ

卷之三

۲۷۳

## ちいき

まも

ぬ

## かねだ勝年「郷土を守り抜く」